令和２年３月１日号（No.67）

GEO協議会だより

編集・発行 ：Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会事務局

大嶺炭田を伝えよう！

わーい

美祢市の西部に広がる「大嶺炭田」では、無煙炭の採掘が明治から昭和にかけて行われ、地域の一大産業となっていました。

大嶺炭田の歴史と文化を保護し、伝承していこうということで、その第一歩として荒川地区の方を対象に集会所において聞き取り調査を行いました。

これは、荒川地区にある榎山炭鉱について、大嶺炭田回顧録「むえんたん」に載ってないような事についての聞き取りを行い、データとして取りまとめてガイドに活かしていこうという取り組みです。

当時炭鉱に勤務されていた西平さん（右）、沖田さん（左）

みなさんは当時の事をもの凄く良く覚えておられ、熱く、熱く語られていました。

これから数年間で大嶺炭田をガイドと一緒に周遊できるツアーを開催したり、イベントを行ったりできるよう様々な取り組みを行えたらと考えています。

また、荒川出身の方々から依頼があり、ジオパークの出前講座を行いました。集まった皆さんは同級生ということもあり、当時の事を思い出して昔話に花が咲きつつ、ジオパークの話も熱心に聞いておられました。

資料を熱心に見る参加者たち

寄附を受けた桃ノ木露天掘り跡地

桃ノ木露天掘り跡地は、昨年度に宇部興産（株）から美祢市に寄附されました。今年度は地元の方々と一緒に進入路を整備しました。来年度からは、露天掘り跡地のまわりの木の伐採や、周遊路の整備にとりかかる予定です。

2/8 タイのジオパーク関係者が来訪 “交流を深めましょう！”

タイ鉱物資源局のアプソン博士と同国ジオパーク関係者2名が、Mine秋吉台ジオパークに来訪、秋吉台などを視察したあと、スキルアップ講座を受講中のガイドらと交流しました。別府公民館では、アプソンさんらがタイのジオパーク活動や大地の特徴などを説明しました。その後、ガイドの案内で江原、別府弁天池、白水の池などを見て回りました。

説明によると、タイがあるインドシナ半島は、四つの大陸が衝突してできた大地で、5億年以上前の地層もあるそうです。また、恐竜の化石はほとんど全土で出土し大きな恐竜博物館が2つあります。タイにはユネスコ世界ジオパークが一つ、国内ジオパークが3つあるとのこと。ガイドらは見知らぬ大地の歴史や風景に興味深げでした。

スキルアップ講座は、一人一人のガイドの技術の向上と、外国からのお客様を含め、ガイドの案内内容の標準化を目標に開かれています。この日は、確認したばかりの同地域のキーワード「水」と「米」を軸に案内しました。お客様は、水を大事に分け合って生活してきた地域の歴史を真剣な表情で聞いていました。

アプソンさんは「ジオパークでは学びあうことが大事です。これからも交流を深めていきましょう。ぜひタイのジオパークに来てください」と呼びかけました。

ジオガイドコラム
げなげなジオ話⑮
認定ジオガイド　楢崎知行

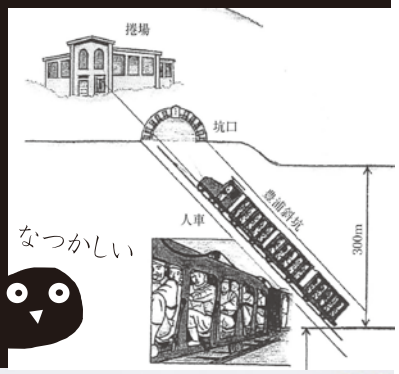
大嶺炭田閉山50年！機関車とエンドレスどこが違うの？

50年前の1970（昭和45）年11月、大嶺炭田の主力鉱山山陽無煙鉱業所が閉山した。それ以前にも滝口炭鉱が、あとを追うように、残っていた榎山炭鉱、大明炭鉱も閉山した。いわば今年は閉山50周年といえる。それもあってか昨秋、何回か大嶺炭田の遺構をガイドした。事務局も関係者がお元気なうちに、資料や写真を集めてわかりやすく整理しておこうとしている。その手伝いも少しして、勉強不足を痛感している。

たとえば、美祢市歴史民俗資料館に展示しているディーゼル機関車（左の写真。宇部の石炭記念館にも同じようなものがある）。山陽無煙のどこで使われていたか。斜坑を人車（人が乗る車を人車、石炭を乗せる車を炭車という）を連ねて地底へ降りていく写真はよく見るから、その機関車かもしれないと思ってた。しかし、斜坑の傾斜は15度、機関車方式では走れず、斜坑ではエンドレス（回転式のケーブルカー）が活躍していたという。ディーゼルは地下で斜坑をつなぐ中央坑道や、さらにその下に何層もある水平坑道を走っていたげな。

そういえば、市発行の『むえんたん』にある図（下）の人車の先には、ケーブルや捲（巻）場が描かれている（とすると人車の先頭の機関車のようなのはなんだろう？）。

先日、榎山炭鉱では充電式の機関車が走り、現場では、電車と呼んでいたと聞いた。そういえば、麦川小学校にも充電式機関車が展示しているな。



なつかしい

台湾馬祖（ばそ）地質公園ってどんなところ？②

馬祖列島の海岸は、岩肌がむき出しの崖になっているところが多いです。上の写真は、南竿（なんかん）島内の小さな半島ですが、この写真の中に、馬祖列島の海岸でよく見られる「あるモノ」が２つ写っています。ヒントはどちらも戦時遺構であるということです。

１つは、迷彩色に塗られた軍事施設です。海からの敵の侵入を防ぐため、至るところにこのような施設が建てられました。写真の真ん中あたりに写る「大漢（たいかん）拠点」は、当時の陸軍が非常にかたい岩盤を人力で掘った坑道です。現在は観光施設として整備されています。

もう１つは植物で、周囲と比べて少し青みがかった「サイザルアサ」という、何枚もの葉が根元から束になって生えている多年草です。敵の侵入を防ぐため、人工的に植えられたそうです。おそらく、写真のような土壌が薄いところでも育つ点も、都合が良かったのでしょう。

では、このような風景をつくる元となった、岩肌がむき出しの崖は、どのようにしてできたのでしょうか？それは…次回のコラムをお楽しみに☆

写真引用
https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/b/b7/Plantsisal.jpg